

第7回開催 知事と語ろう市町村ミーティング in 鶴岡市

【と き】平成22年9月17日（金） 14：00～16：00

【ところ】鶴岡市マリカ市民ホール

【参加者】参加者総勢約150名



- 【1 加茂港湾区域内の主要地方道藤島由良線の改良について】
- 【2 特別養護老人ホームへの低所得者の優先入所について（要望）】
- 【3 庄内地方の交通アクセスについて】
- 【4 戸別所得補償制度について】
- 【5 モンテディオ山形への支援について】
- 【6 地元へ仕事を発注することによる雇用対策について】
- 【7 湯尻川の河川改修について】
- 【8 新規就農支援について（機械導入、林業などの作業環境の改善など）】
- 【9 外国人研修制度について】
- 【10 羽越線の利便性向上について】
- 【11 鶴岡駅前の再開発について】
- 【12 人間道（小さい頃の躰けの大切さ）について】
- 【13 中国ハルビン事務所の開設やその方向性について】
- 【14 映画撮影に対する更なる支援について】
- 【15 地球温暖化対策など次世代が要求する施策について】
- 【16 ナラ枯れ・ブナ枯れについて】

- 【1 加茂港湾区域内の主要地方道藤島由良線の改良について】

☆県立加茂水産高等学校、水産試験場、市立加茂水族館などが位置しております、加茂地区自治振興会の者です。本日は知事さんにご要望を申し上げる機会をいただきまして、まことにありがとうございます。

はじめに、去る7月18日日曜日、1年おきに開催されます県立加茂水産高等学校の学校

祭とあわせて、「第 10 回海の日記念加茂港大漁フェスティバル」を開催いたしました。

知事さんからは少子化、高齢化が進展している地域の中で、加茂港一帯を、そして庄内海浜を広く県民に発信し、県民の方々から海に親しんでいただこうということで、がんばっている私たちの意気込みをぜひ、ご覧になっていただきたいと思ひまして、ご招待のご案内をいたしました。ご都合がつかずお見えにならず、まことに残念でございました。またの機会にはぜひご臨席賜りたいものと、存じ申し上げます。

次に加茂港湾区域の幹線道路の整備について、ご要望申し上げたいと思ひます。私どもの加茂地区は加茂港を中心に発展してまいりましたのは、ご案内のとおりであります。

地区内の幹線道路としては日本海に沿って酒田から湯野浜、加茂を通って、大山鶴岡方面へ通じる国道 112 号と、加茂港で国道 112 号と接続し、これを起点とする由良、温海方面に通じる県道藤島由良線が通っておりますが、いずれも加茂港湾区域内は屈曲が甚だしい上に、幅員が狭隘であり、大型車両の交差も容易でないことから、以前からこの改良整備について鶴岡市を通じてお願いをしているところであります。

また近年、加茂水族館がクラゲの飼育、研究、展示によって全国的にその名が知られ、本年 4 月 2 日にはノーベル化学賞に輝いた下村博士の来館によって一段とその名声が全国的に認められ、年々来館者が増加しております。ちなみに本年 8 月の入館者数は、**52,167** 人で、前年と比較し **6,486** 人も多く、開館以来の入館者数と伺っており、まことに喜ばしい状況にあります。

水族館への来館者の増加は、特に 5 月のゴールデンウィーク、夏期の海水浴シーズンには、来館者の車両で、地区内の幹線道路の渋滞が長時間にわたって発生することが、しばしば見受けられます。特に加茂水族館が平成 26 年には改築オープンされるということであり、今後ますます交通量が増大し、交通渋滞する確率が高まることは必至の状況であると考えられます。

またこの港湾区域は、住宅と港湾を前面に有することからその改修が容易でないことは、十分承知いたしておりますが、加茂地域の将来を考えてみますと、この幹線道路の改良整備なくしては考えられぬものと思われまふ。何とぞこれらの事情をご賢察いただき、早期に改修していただきますよう、国など関係機関とご協議くださいますよう、ご要望を申し上げます次第であります。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。加茂水産高校の隣りに、加茂水族館がありますね。下村博士がいらしたときに、私もまいりまして、一緒に懇談をさせていただいたところです。

今年の 4 月に園遊会に招待されまして、そのときに秋篠宮様、皇族の方全員、私に話しかけてくださったんですけど、その中で秋篠宮様とお話したときに、「山形県のクラゲ水族館が世界一です。ぜひいらしてください」と、宣伝してききました。山形の加茂水族

館は世界一のクラゲの水族館ですというふうに宣伝しております。

昔、子どもが小さい時には湯野浜で海水浴に行きましたので、そのついでに加茂水族館に行ったりしたんですけど、あの頃と全然違ってまして、建物は同じように古いんですけども、あの頃は、クラゲはおいてなかったような気がするんですが、今は本当に素晴らしいクラゲの陳列がされてまして、私は、現代人にすごくうけるような気がしています。あの、ふわふわと浮いてるあれを見てると、なんとなく癒される感じがして、本当に、宣伝していきたいと思ったところです。

また、私は、以前に県の教育委員をやっているんですけど、そのときに加茂水産高校は県立でございますから、そのユニークさといいますか、特色を生かして、発展してほしいなと思っておりまして、知事に就任しましてからは、農林水産業の水産、漁業のほうも活性化したいという気持ちがありまして、漁協の皆さんともほのぼのトークをさせていただいたり、飛島まで行って、いろいろ見学させていただいたりしているところです。

今、お尋ねのご質問、ご要望の主要地方道藤島由良線ですが、県のほうでは今年の3月に今後 **10** 年間のみちづくりの方針というものを定めた、「山形県道路中期計画」を策定しているんです。財政状況もありますので、一度に全部というわけにはいきませんが、選択と集中というものを図りながら、また地元の市町村の声、ご希望、ご要望もお聞きしながら、道路の整備を進めていくことにしているところでございます。

私も新潟側から何度もこの道路を通って山形に入ったりもしましたが、本当に加茂水産高に隣接して集落内を通過する道路で、沿線の民家も本当に多くて地形的にも、今、現道を拡幅するのは結構難しいと聞いております。

交通安全対策につきましては鶴岡市さんや地域の皆さまのご意見をお聞きしながら対策を考えていきたいというふうに考えているところでございます。詳しくは総合支庁のほうから説明させていただきます。総合支庁お願いします。

(建設部長)

総合支庁の建設部長でございます。よろしく願いいたします。加茂地区の皆さんにはさまざまな事業で大変ご協力いただいております。改めて感謝を申し上げます。

今、お話にございました藤島由良線ですけれども、知事からも申しましたように沿道の状況は、民家が連なっております、そこを拡幅していくということは難しいであろうと考えております。一方で加茂水族館の建て替えについては、平成 **26** 年というふうに伺っており、その出入り口の安全対策につきましては、鶴岡市さんと今、いろいろ協議をさせていただいているところでございます。

その件も含めて、これからの安全対策、どういうふうにあるべきかを鶴岡市さんや地元の皆さま方といろいろご相談をさせていただいて、その計画を作りたいと考えておりますので、これからもどうぞよろしく願いいたします。

(司会)

それでは、次の方よろしくをお願いします。

【2 特別養護老人ホームへの低所得者の優先入所について (要望)】

☆私の住まいは藤沢周平さんの生まれたところでありまして、私は民田ですけども、民田ナスの有名なところでございます、私は今、鶴岡市自治振興会連絡協議会の代表です。

一点だけご要望させていただきたいと思います。

平成 22 年度の県政運営についてということで、「心の通う温かい県政」ということで、私も安心しているところでございます。今日の要望ですけれども、特別養護老人ホームの入所の件でございます。

鶴岡市も結構、特別養護老人ホームは数多くあります。その中で待機者が結構 100 人以上の待機となっています。まあ県内どこも同じだと思います。その点についてですが、年金の高い低いではなく、受付順とか、重介護度の重い方からとか平等に入所しているわけですが、低所得者を早く入所させるような手続きを要望したいと思います。

なぜかと言いますと、年金を多くもらっている方は、民間の健康老人施設に入るわけでございます。国民年金とか自営業者なんかは月 4 万円か、5 万円ぐらいで一般の老人施設に入ることは大変だということです。5、6 万円を家族で負担をしなければならないこともありますので、ぜひとも特別養護老人ホームだけは、低所得者を優先するよう、山形県はそのような方針にもっていただければありがたいということでございます。ぜひ実現できるよう、県知事さんからお計らい願えればありがたいと思います。

(司会)

特別養護老人ホームの優先入所ということでございます。

(知事)

はい、ありがとうございます。山形県は高齢化率が全国 5 位でございます、今ご要望いただいたような、その特別養護老人ホームの待機者がかなりいらっしゃるということは県政にとっての大事な課題だということふうにとらえており、施設の整備を前倒しで行なうことにし、待機者の方が早く入れるようにと考えているところです。ただ所得関係のほうでどのようになっているかについては、総合支庁のほうから説明してもらいますけれども、今おっしゃったことについては全くその通りだと思っておりますので、できるだけその方向でがんばってまいりたいと思っております。

また、県だけではなく、その市町村のほうでもお考えをしっかりといただいていると思っておりますので、市長さんのほうからもお話もいただきたいと思っております。では総合支庁のほうから県の計画についてお話ししてください。

(庄内保健所長)

庄内保健所長でございます。高齢化に従いまして入所を要するような方々が段々増えてくることは重々分かっております。

私も鶴岡市が主催いたします、養護老人ホーム入所判定委員会の委員でございますが、ここで委員の方々が、市の方と一緒に経済的なこと、それから緊急を要する緊急度、周りの施設との調整とかいうことで、幅広く、できるだけ公正に判定を行なっているつもりでございます。この方はどうなんだというふうな方がいらっしゃるときには、市のほうに問い合わせさせていただきたいと存じます。

(鶴岡市長)

それでは鶴岡市の方からお話をさせていただきます。今現在、人数待ちと申しますか、鶴岡市で**1,100**人ほどおります。介護度が1から3までの方が約半分、それから介護度4、5の方が約半分。ただ、4、5の方のほとんどはですね、ショートステイとかあるいはデイサービスを使いながらですね、在宅でお待ち願っているということがあります。そういうことから考えると本当に必要な数字っていうのは百何十人ぐらいになります。

ちょっと第4期の整備計画も前倒しで少しずつやっております。ただ、大規模な特別養護老人ホームを作りますと、ただちに保険料に反映、反映してくるっていうたら悪いんですけども、保険料が上がってくるものですから、小規模の形で、あるいは小規模多機能型っていう形で今、養護老人、特別養護老人ホームの整備をすすめさせていただいています。

先ほどのお話のとおりです。所得のある無しよりも、一つはやっぱり介護の状況を、所得があったとしても周りにですね、介護者がいないっていうそういうことも含めて先ほど、保健所長さんが言われたような形で公平な形で入所判定をしているところであります。

ちなみに付け加えさせていただきますと、大山の特別養護老人ホームはおおよそ7割の方がですね、減免措置の対象となってる、まあ言ってみれば低所得者の方々がお入りになられているような状況でありますので、決してどうだこうだっていうことじゃなくて、公平な形でやっぱり入所判定をさせていただいてますんで、その辺はご理解いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

(司会)

次の方をお願いします。

【3 庄内地方の交通アクセスについて】

【4 戸別所得補償制度について】

【5 モンテディオ山形への支援について】

☆羽黒町区長会の者です。大変光栄に思います。大変緊張しておりますが、2つ、3つお聞きしたいと思いますが、私ども何十年も前からこの特急いなほというのが新潟県の新

幹線につながるわけです。そのいなほが何年前に庄内町で大惨事がございまして、その後若干の雨風で止まったりするわけなんですけど、大変それは安全性の問題では当然のことだと思いますけども、それによりまして、大変私ども、新潟につなぐ電車がいないということでは何かの場合には、大変な不便さを感じております。

庄内空港は料金も高いし、発着陸の数も少ないわけです。それから、庄内交通さんのほうのバスもございまして、夜中発進ということでお年寄りの方、それから7時間以上もかかるという時間ではとてもじゃないが、何かある前に大変不都合に感じております。そんなところを県のほうで何かお考えはないでしょうかということをも一つです。

それから、今年から始まります農家の戸別補償制度でございまして、知事さん当然ご推薦のつや姫と同時発進のような形になりますが、この所得補償の制度によりまして、お米屋さんでも既に農家では一反歩 **15,000** 円もらえるんだっていう形で米価はもう全農でも出ていますけども、もう、多いところで一俵から **3,000** 円以上値下がりしております。

これから積み上げがあるのかなのか、不安でございまして、それからこれやはり、滞留米が多いということで、そういう米屋さんの状況あるようなんですけども、山形県は転作率は達成しておりますけども、近郊の農家のあたりでは県では転作の達成してない未達成の県があると聞いていますので、やはりそのへんのところを農業県であります山形県もこう、みんなでそんなところを相談していただければありがたいと思います。

それからあと一つ、若い人のためですが、私どもモンテディオ山形の活躍は大変楽しく、快く思っております。あの中で、真ん中へんでがんばっているのは大変嬉しいなと思いますし、ただ、最近名門の **J1**、**J2** のあたりでやはり経営の困難さからクラブチームのなんかね、解散とかそんなものも聞こえてきますので、私どもの地元にもユースのほうに若い青年が一人おります。

こういう皆さんに、それから今サッカーをなさっている子どもさんたちに夢を与えるためにも山形県でこれからもただつや姫の看板と、もう一つお肉屋さんの看板だけではやはり通じないような気がしますので、よろしくその辺のところを山形県のほうでお考えのことか、お聞きしたいと思います。よろしく願いいたします。

(知事)

はい、ありがとうございます。三つほどご質問をいただきました。まず一つですね、その庄内地方の交通アクセスというお話でございます。特急いなほというと、記憶に新しいのは、やはり脱線事故ですね。それ以来、**JR** 東日本のほうでも安全第一ということになっていると思います。

安全確保は本当に一番大事なんですけれども、年間ものすごい数の運休がされたっていうことを聞いておりますので、本当に庄内の皆さん、交通不便だったろうなあって思っているところがございます。

庄内、秋田、それから新潟と続いているわけでございます、そこの全部を見てですね、

強風対策っていうことをやはり考えていかなければならないと思ってます。どのような対策が効果的で、どのような対策をすすめていくべきかというようなことを **JR** 東日本さんとですね、協議をさせていただきたいというふうに思っております。

この前、その鉄道の検討委員会というようなものがありましたので、私は出席させていただきまして、これからしっかり一緒に検討していきましょうということを申し上げたわけでございます。こうすればいいんだっていう、本当にいっぺんで解決するようないい解決案っていうのはなかなか見当たらないというのが正直なところでございます。

本当に風が強いので、どのような対策が一番良いのか、防風林なのか防風柵なのか、他にもあるのかとかですね、本当にそこを **JR** さんと一緒に県もまた、地元庄内の皆さんとも一緒になって対策を考えていかなければならないというふうに考えているところです。

庄内空港も今おっしゃったように、飛行機はとても便利ではあるんですけども、本数が少ないとか、冬やはり欠航するというようなこともありますので、ご不便をおかけしているなあというふうに思っているところです。

ただ本当にできることをしっかり着実にやっていくってことが大事だって思っていますので、なるべく運休ならないような方向で、**JR** さんと一緒に検討していきたいというふうに思っております。

それから二つ目のお米の問題であります。つや姫が本格デビューっていうことで、本当に去年から先行デビュー、今年が本格デビューなんです。県民の皆さんが非常に期待なさっているし、もちろん生産者の方はそれどころではなく、農業の未来というような感じで、期待されていると思って、私もトップセールスでがんばってきましたし、また特に今年ががんばらなきゃいけないと思っています。ブランドを確立し、値段も高く売れなければならぬっていうのがありますので、今年が特別がんばっていきたいと思っています。

そんな矢先にですね、概算金の額が決定して、県で決めるわけではございませんので、新聞報道で概算金を見たときに、「なんだこれは」と思って、びっくりしたんですけども、ただ続々とですね、他県の動向が耳に入ってきました。

やはりもう全国的にとにかく米を売り切らなければならないという思いで備蓄米を放出して、全部売り切らなきゃいけないという実態もあるようで、そしてまた戸別所得補償制度がいいほうに機能すればいいのですけれども、生産の所得が担保されるからいいじゃないかというような考えで、少しそういう影響もあったというふうにも聞いておりますけれども、全般的に考えて何とも仕方がないところだったのかなあと思っています。

ただ、積み上げはその戸別補償でありますから、積み上げのほうがあるやに聞いておりますけれども、その辺のところちょっと注視していきたいと思っております。

ただ、今年はその状況ですけども、つや姫はなんとしてでも日本を代表するブランドに育てていきたいと思っています。それが山形ブランドの確立にもなりますし、将来的に「はえぬき」をも、今「はえぬき」実力ある米なのに安く売られてるんですよ。

それやっぱりブランドが確立していないからなんです。どこの米よりもおいしいだけ

ど、安く売られています。これは本当に農家の方にとって、私は本当にせつないだろうと思っています。つや姫のブランドを確立して、そして「はえぬき」もけん引していきたいというふうに思っているところです。

戸別補償制度がどういうふうになっていくのかっていうのもまだ始まったばかりですので、注視していかなければならないとも思っていますが、このたび、農水大臣が山形県出身の国会議員が就任するやに聞いておりますし、山形県の現状っていうのもよく知っておられる方でありまして、本当に地方の実情っていうものをしっかりと主張しながらいろいろな働きかけをしていきたいというふうに思っているところです。

つや姫はですね、県民の皆さん一人一人が営業マンになったつもりで私と一緒にがんばっていただきたいというふうに思います。まもなく、今月中に刈り取り、一週間ぐらい例年より早いってことですので、私もやりますが、稲刈りが行なわれて **10** 月には販売になります。

山形で米作ってるなんて知らなかったって言われるくらい、山形のお米は認知度低いんです。今年は秋田も新しい米を出します。北海道も出します。はっきりいって競争なんですね。ただ、間違いなくつや姫が一番おいしいです。それは自信を持って言えますので、科学的にも食味、科学的にも証明されているし、また食べても自信を持って売っていけると思っています。

うまい米を毎日食べている山形県民が、このつや姫はうまいんだっていうことを県外の方にお電話していただいて、また、贈り物におくっていただいたりしてどんどん使っていただいてですね、名前を広めていっていただきたいというふうに思っています。県民パワーが一番強いんです。テレビで盛大に宣伝したって、新聞で宣伝したって、どのくらい効果あるかははっきりいって分かりません。**47** 都道府県あるわけですからね。

ところが山形県民はもう名前も知っているし、おいしさも結構知っている。今年の秋でほとんどの方が知ってくださるだろうっていうふうに思っております。本当に県民が一人一人営業マンになったつもりで、がんばっていただきたい。一緒になってがんばっていただきたいというふうに思っております。

3つめなんですけれども、モンテディオ山形、**J1** に去年から昇格しまして大活躍しております。ベガルタ仙台ともこの前戦って山形が勝ちました。今度はどうなるかっていうこともちょっと、多少心配ではありますけれども、スポーツって若者に夢や希望を与えるだけじゃないんですよ。

私が同居している **89** 歳と **82** 歳の両親もですね、テレビでスポーツ見て喜こんでるんです。で、勝った、負けたって、元気をもらってるんですね。

お正月の1月 **15** 日頃に京都で行なわれる女子駅伝ありますよね。あれなんかも雪降って寒いときだから、みんな家において結構、正月は箱根マラソン見て、で、1月 **15** 日頃は女子駅伝を見るといような、そうやって結構、山形県がいい成績とったりすると、みんな嬉んだりっていうことをしているんですね。

ですから県民みんながスポーツから力をもらう。スポーツはすごい元気にする力を持っているので、私は大事にしていきたいというふうに思っています。

山形県にはモンテディオ山形っていうサッカーチームもあり、また天童にはパイオニアレッドウィングスというバレーボールチームもあります。それから山形交響楽団という音楽の組織もあります。いろいろなものが山形にそろってるんですね。歴史施設とか、いろいろなもの、出羽三山もありますし、質的にとても高い暮らしができる場所だと思っています。

まあ、お金はちょっと足りないけど、質的には非常に豊かな生活ができる環境にあるんじゃないかっていうふうに私は思ってます。それで今、モンテディオのことを心配してくださいました。胸につや姫っていうロゴを背負っていますし、また企業からのスポンサー料金いただいて、非常にJ1の中では少ない金額ではあるんですけども、あれだけがんばっていると思うけど、それはやっぱり県民みんなが応援しているからだと思います。

県庁の中でもですね、「J1モンテディオ山形応援会議」っていうのを設置して、本当にさまざまな支援を物質だけでなく、応援のお金もそうだし、それから実際にその試合の時に応援に行く、そういうことが大事なんじゃないかと思っています。

スタジアムは2万人ちょっと入るんですけども、浦和レッズがきたときなんか満杯になるんですね。その収入がとても大事なんですね、J1、モンテディオ山形にとりまして。まあプロですから、観客動員っていうの、とっても大きいんですね。J2のときには6,000人が平均でしたけれども、J1になってから1万2,000人ぐらいになっているんです、平均がですね。それをもっともっと高めていくことがモンテディオ山形の収入源ともなりますので、力強く経営できることに繋がると思っています。

本当に資金力あるところに比べたら、資金力少ないクラブチームではあるんですけども、その分をですね、県民の皆さんが応援してるんだぞという、その気持ちとかですね、とにかく観客になって観に行くというそういう応援の仕方をしていただくことが、なによりも彼らにとって元気の素になるんじゃないかなってふうに思っておりますので、ぜひ声をかけあって、今まで以上に応援に行っていただきたいなってふうに思っているところでございます。

(司会)

次の方、よろしくをお願いします。

【6 地元へ仕事を発注することによる雇用対策について】

☆藤島町内会長会の者です。よろしくをお願いします。私のほうから雇用問題についてお願いしたいことがあります。この資料の総合計画の中でも5ページに景気雇用対策が載っていますし、現在の状況においても雇用対策、本当に緊急を要する部分だと思うんですけども、実は雇用対策の一番の解決策は仕事を増やすことだと思うんです。

この雇用対策、国でもいろいろ出てんですけども、どうしても雇用すると助成金を出す

とか、そういったものが多いんですけども、やっぱり仕事を増やすってこと、まあ、その中でも民需を増やすのが一番いいんでしょうけども、これもそう簡単にはいかないかもしれないんですけども、国とか県とかいろいろ施策を出して欲しいんですけども、一つ提言なんですけども、他の業界ちょっと分からないんですけども、私が属してる IT 業界のことをひとつ言いますと、数年前に県の情報産業協会っていうところが、県内の IT 投資の県外企業が仕事をしているのがだいたい 17.8%ぐらいしかない。8割以上はもう県外資本とか中央の資本が入ってきてると言っていたんですけども、まず民需ベースの IT 投資の、民需を増やすのもそうなんですけども、ひとつ県とか鶴岡市とかが、そういう IT 投資に関してできるだけ地元にとどめるような形、どうしても今だったら一番おいしい、一番金のかかるところは全て県外とか、地方資本が入っている。

地元はほとんどカスしか残らないような状況ですので、その辺担当者等がかなり手間がかかるかもしれませんが、できるだけ地元でそういったものを、仕事をさせるっていうことが、そういう仕事増やすことが雇用対策の一番なんじゃないかと思っていますので、ぜひその辺をよろしくお願ひしたいと思っています。

(知事)

はい、貴重なご意見ありがとうございます。一昨年、本当にリーマンショックっていうのがあって、世界的に景気が悪くなりました。日本も景気が悪くなってその後本当に山形にも同時に波が押し寄せてきて、少しずつ持ち直してきているとはいわれていますけれども、まだまだ県内の雇用は厳しいっていうふうに思っております。

昨年は山形県の雇用創出1万人プランというのをがんばりまして、その目標は達成しましたけれども、とてもじゃないけどまだまだ雇用は足りないと思って、今年度と来年度の2ヵ年で2万人の雇用創出を目指す、山形県雇用安心プロジェクトというものを今年策定しまして、今、鋭意取り組んでいるところでございます。

本当に県民の皆さんのその、生活の安定ということを考えた場合に雇用は本当に大事だと思っています。今回菅政権が代表選でも勝ち抜き、また再選されましたので、菅さんが続投するわけですけども、一に雇用、二に雇用、三にも雇用っていうふうにおっしゃってくださっているのは本県にとっても非常に心強いってふうに思っているところであります。

今のお話、雇用にとって一番大事なのは仕事を増やすことだっていうのは本当にそのとおりだと思っています。私が就任しましてからですね、入札制度っていうものも見直しをしまして、それまではですね、1円でも安ければ県外でもどこでもよかったんですけども、だったらほんのちょっと安いだけで、県外が落札してしまったら県内のほうはどうなるんだと、地元がやはり大事じゃないかというふうに思いましたので、見直しをしてもりました。

要するに地元の企業さん、業者さんにですね、ちょっと少しでも有利なるような入札の

仕組みといますかポイント制といますかね、そのようなことを考えてだいが県内の企業が落札できるようになってきております。

ただ、ITのほうはですね、やはり結構遅かったかもしれません。やはりどうしてもその、県外の業者さんがですね、非常に、技術的に高いものを持っているというふうな先入観というんでしょうかね、また、そういうところ本当にあるかもしれませんし、必要、実際以上に先入観が強いところもあるのではないかということもありますので、そこはやはり力がどのくらいあるのかとか、そういうことも含めてきちんとか、対話をしながらですね、できるだけ地元の企業というか、その業者、会社さんを使っていくように指示しているところでございます。

物品調達にしましても、できるだけ県内を優先というようなこと、まったく県外、全部カットするということになる、これはまたいろんな問題が出てくるんですけども、いろいろな考え方で合理的なやり方、皆さんに説明して分かっていたら、そういうやり方というものを工夫しながら、できるだけ県内の業者さんがお仕事をできるようにという方向でやってもらうようにしているところでございます。鶴岡市さんはどうでしょうか。

(鶴岡市長)

ただいま吉村知事さんが言ったとおり、ひとつは市も平成17年に合併をしておりますので、合併特例債を使った形での市の仕事、入札も含めて基本的には鶴岡市に本社のある企業の皆さんから仕事をしていただく、それとともにその下請けについてもこれも今年度から、下請けを使うときはその金額の90%は地元の下請けの皆さんから仕事をしていただくようにしなさいってということで指導をしておりますので、できるだけ地元で雇用の場が生まれるようにしていきたいなと思っております。

またこれも県のほうが先にそういう制度をしていただいたものですから、あまりにも低い価格で落札をしますと、どうしてもどっかにひずみがきますので、この低価格についてもある一定の歯止めをかけて、これ以上低くなったら品質に保証できますかというような形をとらせていただいております。

できるだけ鶴岡市も物品の購入についても地元からってことにさせていただいております。ただ、営業所を持っていてもこの営業所に鶴岡の市民が10人も15人も雇用されるようなところについてはやはり、この方々についての雇用を守るためにもそういう配慮はせざる得ないようなところもありますので、これらについてもちょっとご理解いただければと思います。

それからもうひとつ、お尋ねのIT産業につきましては、大変私どもも不勉強ですね、地元でそういうふうな形で鶴岡市なりの仕事、あるいは自治体、あるいはそれに類する団体の仕事ができる方々がおられる事に対してですね、ちょっと不勉強だったんで逆に言えばですね、みなさんから積極的にピーアールをいただいてこういう部門については私でもできますよってことを行政に教えていただければですね、今後更新の時にですね、これら

を参考にしながら、皆さんから仕事をさせていただく場面が出てくるとと思いますので、ひとつよろしくをお願いします。

(司会)

次の方、お願いします。

【7 湯尻川の河川改修について】

☆大泉自治会長会の者です。発言の機会をいただきまして、ありがとうございます。私から2点、お願いいたしたいと思います。市長さんも通る道路というか、河川ですのでわかりだと思えますけども、昔、藤沢先生も湯田川地区の学校通うときに通られた道がありますが、その近傍の湯尻川という一級河川ですけれども、非常にあの、ひとまたぎできるような河川でございます。

このところはだだちゃ豆の産地でもございまして、昨今好評いただいておりますけれども、ちょっとした雨で水浸しになると。お米だけでなく、せつかくのその豆そのものがかなりの被害を受けるというふうなことでありまして、長い間ご助力もいただいておりますけれども、なかなか進まない。

特に昨今のあの事業仕分けの影響もあるのですが、少ない予算がまたなんか削られたので、今年度は少し動きが見えないものですから、加えて先日の11、12日にも水がつかまして影響がでておりますので、ひとつ何とぞ、早期に河川の改修が進みますようにご努力をお願いしますし、またとかく公共事業というのが名指しで非難されまして、もうすでに時代は終わったみたいなことを一般的に言われるようすけれども、その辺に対するお考えをひとつ、お伺いをしたいと思います。

それから、もう一つでございますが、雇用との関係もあろうかと思えますけれども、地域の実情、どこでも同じだと思いますが、農業、地域の高齢化が進み、若者が比較的少ない、その少ない、いわゆるその担い手といわれる人たちが地域の問題やら、あるいはかなりの、農地や民地をこれを見ていかなければこの地域の将来は見込めないような状況になってるわけですけれども、それを支えるべき例えば農機具、あるいは林業の機械あるいは職場の環境そのものがいろんな問題点を抱えておるわけです。例えば草刈りひとつとりましても、今や職場環境からいうと、かなり辛い労働の状況になっておるのではないかと。

ですから若い人たち今後ともがんばっていただくためには、それを軽減するような農業機械と申しますか、あるいは環境の整備を図るようなものの考え方、システムというようなものが、地域あげて工夫されなければならないように思うわけです。

また、特に林業の場合深刻でして、先ほど市長さんから73%は鶴岡の森林率だというふうなことだったようですし、山形県としてもかなり高い比率だと思いますけれども、それを支えるべき機械、システムなどについてはかなり見劣りを、あるいはその、あってもその相当の高価格のものしか出回ってないような感じで見受けておりますけれども、例えば、

森って聞きますと、北欧の三国あたりでは、そういうことに対してのシステムもかなり進んでまして、加えてそれをバイオマスに結びつけたり、あるいは間伐して出す木材などの単価なども電磁波障害に対するものであるとか、あるいは環境材としての活用してるというふうなお話も聞いたことがございます。その辺について、知事さんのお考えをお願いします。

(知事)

はい、ありがとうございます。今のお話の中にさまざまな本当に将来の方向性、逆にご示唆をいただいたような気がしております。貴重なご意見ありがとうございます。本当に先だつての鶴岡市で発生した土砂崩れ災害、本当に痛ましいことだつてふうに思っております。

山五十川地内の災害については、私もちゃんとお聞きしております。今後の対応で、今年度土砂崩れの流出防止のための砂防堰堤というものを作るというふうに聞いており、しっかり対応していきたいというふうに思っております。

また、河川改修ですが、やはりどうしても毎年川の流れの中で上流から流れてきたものがどんどん溜っていく、川の広さ狭さにかかわらず本当にいろんなところでそれを耳にしております。

中州ができたり堆積物が溜ったり、そういうところきっちりと管理していないんじゃないか、特に最近ゲリラ豪雨、集中豪雨になって、そこに水が流れて、あふれ出したりすると大変なことになることから、河川改修をしっかりとしなければいけないということを最近、いろいろな方からご意見もあり、考えていかなければいけないというところがございます。

確かに予算というものはなかなかないわけではありますけれども、河川改修については、きちんと将来を見据えてやっていかないと災害につながってしまいますので、今貴重なご意見もいただきましたし、きちんと受け止めさせていただいて、これから対応を考えていきたいと思っております。ありがとうございます。

それから若い人が就農するときの農業機械は本当に高額でございまして、そこら辺も本当に課題です。農業界も本当に高齢化しておりまして、農林水産業って大事にしなきゃいけないのに、逆に産出額が減りつつあるんじゃないかというような、ご指摘もあるくらいに危機的状況だと思っております。就農者を増やさなきゃいけない、それが課題だと私も思っております。

去年は、いろんな業界の景気が悪くなったということで、農業界にとってはある意味でチャンスでもあったわけです。就農者が増えました。ただ、しっかりとこれからも就農していただき、継続していただくということが大事ですので、若い人が農業を続けていけるような施策というものをどんどん打ち出していきたいというふうに思っております。

林業のお話もありました、北欧のご紹介もいただきました。まさに鶴岡市と同じように山形県の72%が森林になっております。これを生かして雇用も創出していくというのが

大事だと思っております。方向的には全く正しいことですが、いかんせん、まだそこにエンジンがまだかかっていない状況ではないかというふうに思っております。

本当に北欧とかドイツとかのほうでは非常に力を入れているんですけども、日本では方向性を打ち出したけれども、まだまだ具体性が見えないところであります。

その中で本県のような、山林が、森の県でありまして、どういうふうにやっていくか、本県の強みを生かした産業構造にしていくことが大事でありますので、技術力を高めるってということと、農林水産業の分野で加工、付加価値をつけてですね、雇用を創出していく。

そして林業も今ご意見いただいたようにバイオマスの方向で生かして雇用の場も増やしていく。森林の手入れもきちんとできるような方向に持っていくことが大事だと思っております。

総合的にやっていかないと雇用はやはり作れないのですよね。非常にこう、課題山積ではありますけれども、木質ペレットをもっと使って持続的に環境、エコと言ってますけれども、環境産業というものがもっともっと盛んになるような方向に県としてももっていきたいなというふうに思っております。

10年近く前から木質ペレットを作っている会社が全然進まないんだというようなお話も私は聞いておりますけれども、本当に最近環境ということが強く言われ出しておりますので、ここを乗り越えてですね、やはりもっとバイオマスという目線をしっかりもって、県民の皆さんと一緒に行政をはじめ、いろいろなところで、設備の中で木質ペレットを使えるような施設を増やしていくことが大事だろうなと思っております。

本当にまだまだ足りないんですね。それを増やしていけばコストも下がり、産業としても成り立つという方向にいきますので、いろいろなところに声をかけているところではあります。

ちなみに小国町あたりでは町が力を入れて役場庁舎や道路の消雪などでその木質チップ、をどんどん使っているのだからちゃんとコストも良く、安くなっていい案配にまわっているというお話を町長から聞きました。県内でそういうところもできておりますので、県全体でそのような方向にいけるように取り組んでいきたいなというふうに思っております。

(司会)

次の方、よろしくをお願いします。

【9 外国人研修制度について】

☆藤島町内会長の役員しております。今先ほど雇用という問題が出ておりました。私は毎朝見る光景があるんです。それは何かといいますと、中国のほうから職業研修ってことで3年間、来てですね、3年終るとまた帰ってまた別の人たちが来ます。今、この制度っていうのは国の政策だと思うんですけども、外国から研修生を呼んで、企業に補助を出

して、そして低賃金でつかっていると。私はこれはどうして今、こういう雇用で騒がれているのにこういう事業ってのは、どこまで続けるのか。

それからあの、こういうものは私から思いますとね、やはり国内をしっかりと守るにはこういう制度ってのは廃止されたほうがいいんじゃないかなと、常々感じてるところなんです。

なぜかと申しますと、日本人が勤めるのは8時から5時で帰っていきます。しかし、その人たちってのは、私毎朝見えますけど7時で出て行って、それで9時頃まで仕事して帰ってきます。それから日曜日も休みません。こういう人たちね、庄内にいっぱいいるんですよ。私の家の後ろにも空き家に9人チームを作って一緒に暮らしながらそういう職場で毎日働いてるんですよ。

やはり今、雇用、雇用っていうことで大きな問題になってるようでございますし、山形県でも、山形県雇用安心プロジェクトっていうものをここに書いてあるように掲げられておりますが、この問題に対してどのようにお考えになるのか、私そういう、その点ちょっとお尋ねしたいなと思って、ちょっと、すいません、それでね、あれ私思うには日本の円がどンドンどンドン向こうにまで持っていかれるんですよ。

それで話によると、3年日本で働くと向こうに家一軒建てて、それでも優雅に暮らせるっていうそういう人たちが若者が来てるんですよ。こういう点をどのように感じられるのか、それからこの制度ってのはどういうものなのか、分かる範囲で結構でございますんで、山形もこういうものをしっかりとプロジェクト、安心プロジェクトチームでこういう対策なんかも考えてもらえるかなと思っておりますが、よろしくお願いします。

(知事)

はい、ありがとうございます。国際的な問題だと思っております。私行政書士の仕事もしておりましたので、海外からの研修生を呼び込むこと、許可するときに10何種類の許可事項があるんですけども、その中の一つの要件になっておまして、期間が何年だったかは私忘れちゃったけども、例えば1年だったら1年ずつ更新するとか、そのような制度だと思いますけれども、今本当に具体的なお話を伺って、庄内でそういうことがたくさん行なわれていたのかというふうに思ったところでした。

お話によると、7時から9時頃まで働いて、日曜日も働いているというようなもうちょっと過酷な労働条件だと思いますね。確か、労働の規制はあるはずなんですよ。研修生であっても労働基準監督署がちゃんとそこに見に行っているのかどうかちょっと心配になったところです。

というのはやはり、外国人であってももちろん人間ですから、体を壊しては何にもなりませんので、そこはちょっと心配だなと思ってお聞きしていました。

国内の働く場所がなくなるから廃止したほうがいいというようなお話でありますけれども、そういう考え方も一つはあると思いますが、今までですね、高度経済成長ずっと続いて、どういうことが起きたかっていうと、3K といって、汚いとかですね、要するに仕事

をしていてきつとかです、その「かきくけこ」の **K** が3つ続くようなことを **3K** っていうふうに言うんですけれども、その **3K** の仕事には日本の若者は就きたがらないと。

だから、そういうきつい、汚い、危険の **3K** です。そういうことにどうしても就きたがらないので、産業がもう成り立たないんで、じゃあ外国人だと仕事なくてやってきまずので、そういうことも許可しようかというふうになったのかなというふうに思っておりますけども、今のお話ですと、3年働いて帰って行って家一軒建てる。貨幣価値が全然違いますので、こちらの **10** 万円があちらの **100** 万円だったり、国によってはしますんで、そういうことがあったと思うんです。

また中国から何年か前留学していた人が食費を切り詰めて貯めて、帰るんだってっていうようなことも、知事になる前にちょっと耳にしたこともあったんですけれども、やはりお国に持って帰ると大変価値が何倍にも **10** 倍にもなるので、そのように頑張ったのかなんていうふうに思ってますけれども、そのことを良い悪いとかちょっと正直申し上げて、はっきりは言えないんですが、ただ仕事に、私は善し悪しはない、どうしても高校を卒業するときに、事務系の仕事をしたいっていうのがとても多くて、労働のほうにいきたくないっていうようなことで、結局事務系の仕事で人が空かないと入れないわけですから、そしてまたいろんな **IT** 関係が発達すれば、人間の数が少なくて済むようになっていきますので、事務系の仕事もどんどん少なくなってるのかなっていうふうに思います。

ですから何を言いたいかっていうと、仕事というものに対する考え方というものをね、私はやはりもっと深く考えるような教育も必要じゃないかなと思っています。小さい頃から、例えば山形らしい教育といいますか、農業を体験させるとかです、やはり畑耕したり、田んぼで田植えしたりというのは、やっぱり泥で汚れるわけです。それ、嫌がってたらちょっとやれないわけですよ。

だから大変なこともあるけど、その植えたものが育つ喜びとかです、食べる喜びとかいろいろなこともあります。また、天候不順で思うようにいかないというようなこともあります。

だから挫折なんかも味わえるわけですね。失敗とか挫折とかそういう経験も私は大事だと思っています。総合的に山形県らしい教育というようなものを行なって、キャリア教育につなげるとか、いろいろな分野の仕事をみんなが分担してやっているからこの社会が成り立っているんだっていうことを、もっともっと若い人に教える必要があるんじゃないかと。みんながこの社会を作っているっていうのは事務系の人だけが作っているわけではないということですよ。だからそこは問題だと私は思っています。

ある高校の先生が、高校1年生で入学してきた人に「将来何になりたいか」って聞いたら、全員「公務員になりたい」って手を挙げたっていうんで、先生が「びっくりした」って言うのを聞いたことがあります。それはやはり、親御さんがそういうふうに言うてるんじゃないかっていうような話でありましたけれども、公務員っていったっていろんな種類があるんだと。獣医さんいれば、その現場のほうに行く仕事もあればですね、さ

さまざまな仕事があるんだよってということを教えたと言っておりますけれども、その人生教育というか、キャリア教育というのは就職だけかと思うけどそうじゃなくて、仕事を通しての人生という大きな視点でもっと社会的なことを若い人に考えてもらうそういう機会が必要なんじゃないかなって私は思っています。また、農業に誇りを持ってやっていくという、そういう視点も大事じゃないかなってふうに思っています。

答えにならないかもしれないですけども、今、国でやっているその外国人を受入れる許可制度をどうするかというようなことまで、私はとても言えませんけれども、やはり現状認識としては、国内の雇用を考えると、「まずキャリア教育も大事だ」というようなことを今、教育界に言っているところなんです。

(意見者続いて)

どうもありがとうございました。就職で困ってる人もいるもんですから、中国人は日曜日も働いてそれで、3年間の研修期間、そういうことなもんですから、就職、高校出ても就職できないと、何でもいいから働きたいなという方がいるわけです。そういう関係を見ているもんですから、県の今日の質問事項とちょっとかけ離れている問題かもしれませんが、山形県としてもやはりその辺、意見があるんだなということをお聞きになっていただいて、上のほうにいろいろお話していただけるならば大変ありがたいなってことで、突然の質問どうもありがとうございました。

(知事)

ありがとうございます。今までのご質問もですね、前からいただいていない方は何人もいらっしゃると思います。お一人だけでございませんので、どうぞお気になさらずに。貴重なご意見本当にありがとうございました。

【10 羽越線の利便性向上について】

【11 鶴岡駅前の再開発について】

☆私は、羽越線愛好者なもんですから、やっぱり駅の新潟の乗り入れは前から持ち上がっていますが、なかなか進展してないようなので、よろしく願いいたします。

あと、先ほど出ましたいろいろ映画産業とか、鶴岡で今観光事業をしてますのに、それにつきましては鶴岡駅の駅前がすごく寂れておりまして、今、ジパングのいわゆる高齢者の旅行者とか、それから「きらきらうえつ」というので、朝早く上野、東京発つてくると鶴岡に早く着いて安いので、入ってらっしゃる観光客の方だいぶいらっしゃるんですけども、貸し自転車で市内を回ってらっしゃる高齢の方だいぶお見受けするんですけども、なかなか駅前がなんかすごく寂れてて、とっても地元民としては恥ずかしいような感じがしてるもんですから、駅、羽越線の整備のときに、鶴岡駅と駅前の整備なんかぜひ市長さん含めてよろしく願いしたいと思いますので一言申し上げました。

(知事)

はい、ありがとうございます。羽越線のお話でございます。新潟駅での乗り換えに2回も上り降りしなくちゃなんないってことを私も聞いておまして、ただ、新潟のほうの問題ではありますけれども、今、着々と乗り換えしないで済む、同一ホームで乗り換えられる方向で計画を進行中だっというふうに聞いてございます。

平成 25 年度を目標に、進められているというふうに聞いておりますので、あと何年か、数年でございますので、乗り換え本当に大変だと思います。私も山形新幹線、ミニ新幹線になる前はですね福島で乗り換えてたんですけど、一人の子どもをおんぶして、一人の子ども手を引いて、乗り換えも走ってたんですよ、「早くしろー」とか言いながらですね。本当に乗り換えがどんなに大変かってこと身をもって知っております。

平成 25 年度が目標ということで進められておりますので、もう少しお待ちになっていただくと楽になるかなというふうに思っております。

駅、鶴岡駅前が寂れてるということで、恥ずかしいとまで言われたんだから、市長さんもちよっとがんばらないと思いますけれども、どうでしょうか。

(鶴岡市長)

毎回、いろんな方々からそういうお話を聞きます。またこの地の出身者で都会に出てる方々が、鶴岡に帰ったときもですね、「駅前なんなんだ」という話を聞きます。また観光客の皆さんからもお話を聞いてます。

まさか 30 年間でこういう状況になるとは誰も思わないで駅前の再開発は行なったわけですけど、終ってみればこのような状況ですので、どうするか。

今、マリカ東館の2階になりますか、3階になりますか、一部は高校生の学習の場として、試験的に今年の春からやらさしてもらいましたが、高校生の皆さんが整然とですね、使っていただいているものですから、22 年度はまた 10 月からも来年の3月に向けて開放していきたいと思えますし、当面、今これという形のものがないとすれば恒常的に高校生の学習の場として、あるいは電車の待ち時間等に使っていければと思っています。

1 階部分についてはですね、昨日も若い皆さんと1時間半ほどお話したんですけども、何とか飲食街も含めてマリカの東館の1階についてはいい方法を考えてもらえないかと。

たとえばまちキネマ、映画館はできたんだから、あれほどの建物はあるんで1階の部分は何とか考えてもらえませんかということでありますんで、これちょっと役所の中あるいは市民の皆さんのご意見を得ながらですね、あるいは商工会議所の皆さんからも含めてちよっと考えていきたいな、と思っています。

また、これはちょっと余談なんですけども、今日、商工会議所の副会長さんも来ていますけど、商工会議所が入っております物産館もだいぶ古くなってきてますので、これの建て替え、あるいは行き場についても今ちよっと検討中です。それからジャスコ跡地はです

ね、事業仕分けで切られてしまいましたけども、六本木にマルシェ広場っていうことですね、土曜、日曜の市みたいだったんですけどね、そんなものをですね、やってみたいなと思ってた団体がおられたんですけども、これ事業仕分けで補助金がすっかり切られてしまいましたんでちょっと今のところ、駅前の商店街の皆さんともですね、いろんなことを検討させていただいておりますが、まだきちんとした成果まで進んでませんので、逆に言えば皆さんからですね、こういう活用あるっていうようなのもですね、ご提案をいただきながらちょっと進めていきたいと思っておりますので、もう少し時間を貸していただければと思います。よろしく願いいたします。

(知事)

はい、市長さんありがとうございます。本当に街づくりは行政だのみだけでなく、本当に街に住んでいる人が「こうしたい、ああしたい」っていういろんな意見を出して、そしてその中に、本気でがんばる人がいるとうまくいくってふうに聞いています。

国交省のお役人で全国の街づくりを調べた人がいて、やはり一生懸命になる人がいるところはうまくいくなだっているんですね。だからぜひ市民の皆さんにも誰か、本気でがんばる人が出てくるといいなあっていうふうに、今、お聞きしていて、思ったところでございます。

(司会)

次に方、お願いします。

【12 人間道 (小さい頃の躰けの大切さ) について】

☆今日という日は大変このような、とてもとても足下にも寄られないお方かなと感じて今日はお伺いさせていただきました。まあ、恩返しというのではないでしょうけども、私は何人か社員をかかえている仕事をやっています。

一人の社員が体調を崩しまして、「じゃあ自分はちょっとしばらく休ませてもらいたい」という声のでたもんですから、安定所さんをお願いしまして紹介していただきましたところ、大変、この方は男性ですけど、**35**歳の男性で、この暑いところちゃんと背広を着まして、ネクタイもやって、そして面接においでになってくださった方です。**35**歳位の方で、このくらい身なりに注意する人で、そんなにいるかなと私も感服しておりました。

そして「あなた暑いでしょ、上着脱いでどうぞ」って言ったら「じゃ、脱がせていただきます」ってそういうふうに礼儀正しく、ワイシャツで面接させていただきましたけども、やはり学校の先生が礼儀作法を教えます、親戚で教えますというものではなく、私はなんといいまして、生まれたやっぱり生家の家でその一人一人に教育をして、初めて社会人に出してやるのではないかなと私は子どももおります、ひ孫もおります、あ、孫もいます。

やっぱり小さいうちから三つ子の魂百までというように、やはり大人、私たちのようなおばあさんがやっぱり教えて、初めてその子も社会人になったときには、恥もかかずに

娵婆をわたれるのかなと私は常々、今回も教えられました。その方は先月の**20**日のところの面接やりまして、大変礼儀も正しい、生まれは鶴岡でなく横浜の出身であったんですが、そして奥さんが鶴岡の方で婿養子をとわれて、「私横浜から養子になってきました」って正直に言ってくださったことを私は「やあ、素晴らしい方ですこと」と言いましたけども、やっぱりそういうふうな小っちゃいうちのしつけというものは一生脱げないものにその人についてるものではないかなと、私は常々、「人様の振り見て我が振り直せ」のごとく、本当に生きている間やっぱりそれも一つの勉強かなと思っております。

雇用、雇用っていろんな問題ありますけれども、やっぱり人間道というものは大切ではないかなというお話でありました。どうも申し訳ありません、こんなお話させていただいて、申し訳ありません。ありがとうございました。

(知事)

ありがとうございます。本当に今、素晴らしいことを教えていただいたと思っております。三つ子の魂百までっていう言葉本当にそのとおりでありますし、また別の言葉では「鉄は熱いうちに打て」っていうような言葉もありますけれども、やはり、生まれ育つその中で、生活していく上でのいろいろな知恵とかですね、今、人間道という素晴らしいお言葉で言ってくださいましたけれども、本当にそのとおりだなんていうふうに私も思っております。

学校に入ってからどうのとか、会社に入ってからどうのということではなく、それも大事だけどやはり生まれてから育つ、その家庭でのいろんな教え方、本当に人間として生きていく上での基礎といいますか基盤といいますか、そういうものをしっかり教えるという、周りの大人が教えるっていうことがとっても大事だと思います。

そういうふうにして育った人はですね、大きくなってやはり周りの人に対してもしっかりとした態度がとれる。そして絆というものを持っているので、犯罪に走るようなことも少ないと思いますし、また、お年を召した方が行方不明というような事態もならないで済むんじゃないか。やはりそこが人間同士でしっかりとときちんと次代を育てる、次の世代を育てるということがもっとも大事なことであろうと。

ここ鶴岡というところは本当に致道館もあったところでありまして、本当にそういう意味で人づくりがしっかりとされてきた土壌があるんじゃないかなと。今お話をくださった本当にそのことに対して心から感謝を申し上げます。

県としても教育委員会のほうにも、またしっかりそういうことも申し上げ、また次代の親を育てるといふ、そういう視点でもやっていきたいっていうふうに思ったところです。素晴らしいお話でございます、本当にありがとうございました。

(司会)

次の方、お願いします。

【13 中国ハルビン事務所の開設やその方向性について】

☆JA 鶴岡の組合長をしております。どうもいつも県知事さんにはお世話になっております。簡潔にということで、いろいろお聞きしたいことはあったんですが、じゃ、一つだけに焦点絞らせて、ちょっとご意見伺いたいと思います。

まず1点は、今県のほうで中国黒竜江省のほうに、省都ハルビンに県の事務所を出すと、このような新聞報道がございました。私も非常に期待するところですが、冒頭いろいろと皆さんのほうから話ありましたように、今年は農業を巡る環境大きく変化しまして、2年前、経済金融界でリーマンショックがあったと同様の激震が米価の下落といったような形で、まさに地元農業界、農協界を揺るがしているところであろうと思います。

そんな中で新しいところへの方向もわれわれはやらなきゃならないわけなんですけど、その中にやはり輸出、農畜産物の輸出といったようなところ、部分に、かねてからいろいろな関心をわれわれも示しております、しかしながらなかなか、一気にそれに拡大することは到底、無理な話です。

そんな折りに、省都ハルビンのほうに県の事務所を開設すると話がございましたので、その辺について、農業界のみならずなんですけれども、あえて農業界のほうで新しい雇用の拡大、新しい品目へのチャレンジ、さまざまな部分で過去にないいろんなところにチャレンジも必要であろうと、このように思っております。

そういったことからしますと輸出に関して、県知事さんのほうから、その事務所のこれからの方向付けですとか、さまざまなビジョンが、おありと思いますので、若干その辺についてお話を伺えればありがたいと、このように質問ではありませんが、ちょっとお尋ねしたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

(知事)

はい、ありがとうございます。今、県会議員の先生方3人が、にやっと笑っておられるんですけども、実は来週の月曜日から県議会が始まります。それでその県議会で議論が始まります。その前に私がここでいろんなことを申し上げると、議会軽視、となるんですね。

多分そういうことで3人のご来賓の県議会の議員の方々がちょっと、複雑な表情をなさっているのかなと思ったところなんです。ですから、議論は県議会で来週から始まりますので、そこを注目していただだけませんか。

議員の先生方は県民の代表でもございますし、私は執行部のトップとしてそれに対してお答をちゃんとしていくという役目がございますので、よろしく願いしたいと思います、

(司会)

次の方、お願いします。

【14 映画撮影に対する更なる支援について】

☆手短かに申し上げます。さっきから商工会議所の名前が出てましたので、商工会議所の副会頭をやっています。元の荘内銀行の頭取をやっています。いろんな産業で雇用創出をしていくということは本当に大変大事なことでありまして、商工会議所としましてもいろんな仕事をどうやって作っていくかっていうのは、これは大きな課題として思っています。そういう点でのぼりも作っていますけども、鶴岡は映画産業の街だということで、藤沢周平記念館も市のほうで作っていただきました。

それと全く民間で、庄内映画村のオープンセット、がんばっています。それからまちづくり鶴岡で市内に映画館がなかったということで、まちキネということで映画館も作りました。新しいことにチャレンジをしていくというその、前向きなこの風土、やっぱりこれは榎本市長さんから、それから吉村知事からも絶大なご支援をお願いしたいものだなあと思っています。

一つは映画産業でオープンセットのほうでありますけれども、アカデミー賞とりました、「おくりびと」の効果があって、全国各地域です、地域おこしはこれだということで、映画の誘致合戦が非常に激しくなっています。

吉村知事からもご理解いただいて、映画を誘致してここで撮影をする、山形県内で撮影するものについて、ご支援をいただいていますけども、特に京都の太秦のほうが目覚めましてですね、山形に持っていかれてたまるかというので随分と力が入ってきてるようです。

ですから、競争環境が昨年とはガラッと変わったということをおひとつご理解いただいて、この映画撮影、映画の誘致について特段のご配慮を願いたいなあとこんなふうには思っています。

あとはもう一つ、まちづくり会社でやっています、まちキネでありますけども、多くの株主の皆さんからリスクを覚悟して作ってもらいました。社長以下、大変に努力しておりますけれども、こちらについてもいろんな方から、また国を含めてご支援いただきましたけれども、せっかくのこういうお話する時間があるとなれば、今日ご参加の皆さん方ですね、ぜひとも地元の資本で地元の皆さんがリスクを覚悟して作った歴史的な産業遺産、松文産業さんのですね、今から **80** 年以上前の建物をああいふふうに使っている映画館でありますから、ぜひ地元の事業を、地元の皆さんからご支援いただきたいもんだということをおひとつ一言申し上げておきたいと思っております。ひとつどうぞよろしくお願いたします。

(知事)

ありがとうございます。素晴らしい、貴重なご意見をいただいたと思っております。映画の誘致、本県が昨年打ち出したときは本当に全国でも稀でありまして、先鞭を切ったかなというふうには注目をされたと思っております。

それから、映画村がここ鶴岡市にできまして、もう、たくさんの観光客の方々がいらし

てくださってます。今、京都の太秦も目覚めたっていうことを今お聞きしましてですね、はあ、そうかと思いました。全国で映画の誘致が、競争が激しくなっている。そのことを踏まえてまた新たな映画誘致ということもしっかり考えていかなければならないというふうに今、ご意見、ご提案をちょうだいいたしました。ありがとうございます。

それから「まちキネ」とか本当に私も1回見させていただきましたが、昔の織物工場でなんか一歩足を踏み入れたらほっとするような空間でしたね。

それで昨日ですね、千葉のイオン財団の理事長さんにお会いしてきましたんです。今度、民主党の幹事長になる岡田克也さんのお父さんで岡田卓也さんっていう84歳の方なんですけれども、その方が山形で絆の森というのを、植林をしてくださるということでね、中国でも何十万本も、100万本も木を植えた方でありまして、山形県にも木を植えるという、協力してくださる方なんです。来月一緒に植林をすることにしております。南陽市なんですけれども。

その方のところに昨日ちょっと行ったんですが、全国で観光、やはり盛んになっているところはその、昔のものを大事にしている非日常的な建物があるところだよってふうにおっしゃっていました。

確かに山形市のほうでも今、紅の蔵とかですとかね、御殿堰・水の町屋っていうのを今人がたくさん訪れているんですけども、昔ふうの木造の建物なんです。やっぱそういうところに行くと日本人は何となくほっとするといいますかね、そういうものなんだなあってふうに思います。

まちキネも本当に土地の皆さんが愛してこそ、また観光の方もいらしてくださると思いますし、何よりも街の中に作った映画館ということで、皆さんがどんどんこう、行ってくださるっていうのが本当に大事なんだろうなっていうふうに思ったところでございます。ここは鶴岡市長さん出番です。

(鶴岡市長)

実は映画産業については吉村知事さんが非常に力を入れていただいております。映画村で撮影された映画についてもいろんなご支援をいただいておりますので、今度封切になります「十三人の刺客」なんかもこれも完全に映画村で撮影されて、ベネチアの国際映画祭で何か賞をとると、もうひとつさっきの「おくりびと」じゃないですけど、弾みがつくのかなと思っていましたが大変残念でしたけど。

ただ、一つは話題はもう皆さんご存じのとおり、今度また改めて藤沢周平作品が映画化になります。「小川の辺 (ほとり)」という課題ですけど、知事さんが出演しますので、ぜひ来年封切りになったら、観ていただければなって思います。

それから、まちキネは非常にいいところなので、もしこういう形でうまく使えたらってことで社長にもお願いしてあるんですけども、町内会のちょっとした娯楽で映画を観ながらあそこの食堂で食事をする。

できればセットでやれば少し安くしてもらって、どっちか安くしてもらって。あるいは老人クラブでもいいでしょうし、子供会もいい、子供会に合ったような映画をしてもらって、そういうふうな活用をですね、皆さんの中から考えていただいて、せっかくがんばって作った8年ぶりの映画館ですんで、これを盛り立てていくのも私どもの市民の努めなのかなと思ってます。

それとともに山王町の街づくり委員がですね、山王町の皆さん一生懸命あそこ取り組んでいますんで、まちキネと一緒に一体の形で買い物したりすると特典がありますんで、これもですね、山王町の皆さんがんばってます。

ひとつ皆さんからご支援いただければと思います。映画産業についてはこの鶴岡の財産として、山形県の財産として盛り立てていきたいと思います。よろしくご支援お願いします。

(司会)

次の方、お願いします。簡潔にお願いをいたします。

【15 地球温暖化対策など次世代が要求する施策について】

☆時間ないようでありますけれども、時間お許してください。市長さんや副市長さんの前で今日お話するのは非常に心苦しいのです。とつてもこういうふうな山に関してはベテランでありますので、私が話しすべきじゃないと思いましたが山から出てきて、日常山で働いております 88 歳です。

しかし、なんとしても皆さんに訴えたいことがあるのです。それは何かといいますという哲学です。すなわち、自分たちがどうあるべきかということが見えていない。個々の仕事が見えておる。こういうふうな取り組みやる、ああいうふうな取り組みやろうというふうな考え方はいろいろな形で提案されておる。しかしそこに関して将来、こういうふうな姿の社会をつくろうじゃあないか、こういうふうな社会になるんじゃないかっていう線が出ていない。ここはね、私はほしいと今つくづくと思います。

ただし、知事さんの人柄を感じて非常に感動しました。私はこの県の計画の中の5番目にね、こういうふうな言葉が出ておりますので、私はこういう言葉の中に共鳴をして希望を申し上げたいと、こういうふうにするのです。それは何かといいますというと、地球温暖化の対策推進の中で、県産木材を使用した山形化うんぬんというところ、そして「やまがた絆の森のプロジェクト」の欄があります。この絆の中の森づくりの活動の成果をみましようと、いろいろな形で、絆の宣伝、新聞にもでております。

しかしそれぞれが精一杯がんばって一つの自分たちの限界を感じながら緑に取り組んでる姿に対しては本当に感動します。ぜひこういうふうな形で山に応援して欲しいと、私は荒沢ダムのすぐ近くでありまして、毎日山にいらしています。

この中で特に知事さんをお願いしたいのは、ナラ枯れであります。ナラ枯れをどう受け

とめるか、ということで、県のほうの施策の中に一反歩だいたい8本ぐらいですね。その8本で基準としまして、2反歩で**16本**という話がだされておるようです。そういうふうな姿を示しながら、ナラ枯れに積極的に取り組んでいこうと、そして山の開拓の非常に無残な姿をなんとかひとつ救っていこうという姿がみえております。この姿の中にね、私は感じたのです。ナラの木がちょうど6本、1反歩6本か7本ていうのがね、虫の食いつく太さなんです。だいたい**50cm**ぐらいになるといって、虫は喜んでそれに食いついていきます。

そういうふうな本数を計算されての、県の計画は素晴らしいと。庄内支庁の方も私の山に来まして現場を見ました。その時、一番の問題は道路です。道路が**3m**の作業道路ではとても問題にならない。しかも大型車が入るっていうと基幹道路の舗装が、その通るといって問題もおこってきます。

具体的な取り組みの中に、どういうふうにしてこういうふうになら枯れで、悩んでおる山村の人々を救っていくかと、ここに一つの大きな哲学があると私はみています。

それは何かというと、私たちの住んでおる山里、山里ということは山から見た里です。私は里山ともこういうふうにも言います。里山という言葉。里から見た山なんです。この辺の語句が非常に大切なので、どうしてもその山のある里を見守らなければ、奥山から、奥山っていいまして、昔私たちは炭焼きいったところですよ。満**87**歳ですから山にいらしております。炭焼きもしました。そして泊まりがけでやっております。大半が契約炭焼きなんです。すなわち、小作人なので、山の。ここに身の保証がないとね、山の姿を浮き彫りすることできねえのじゃないか、というふうな感じします。

これはなぜかといいますと、昭和**22**年、教育改革に定時制高校が出てきます。酒田のほうの問題がおこっておりますね。なぜ定時制高校が大切かという今この基盤整備の農業を起こしたの。夜回って、青年がこう回って生徒募集しました。私は山形高校ですから、4月**16**日に開校しました。絶対に知事さんに言いたいと思っている。世代が要求するものに対する取り組み。ここは見えていないとダメ。そしてその展望がね、皆さんこういう場です。はっきり示していかなくやならん。その示すが鍵です。取り組みの具体的な問題と、取り組みのいろいろ連携ってものが生まれてくるだろうと思うんですが、それがあまりにもね、薄い。ここはね、施政者の勉強にあると私は思う。

結局、その辺のところの取り組みと具体策の連携の中に、地方民を引きつけている。ただし定時制高校が終ったときは、農業のない農学校はなんになった、こういうふうになんかに言われたんですが、ホームプロジェクト、家庭実習なのです。

ここに、村長さん達がもう精一杯そこに取り組んだんです。今、山に取り組んで欲しいんです。地方のその指導者たちに。その取り組み姿勢の中に哲学がなければね、いきたくない私は思っている。何かしら歯がゆさを感じず。ただ、皆さんとディスカッションしてみたいと思う。でなければ、庄内は救われないだろうと思う。定時制林業を、理解しない人は、教育うんぬんはちょっと無理じゃないかって感じがしてならないのです、やめます。はい、失礼しました。

(知事)

本当にありがとうございます。本当に山は宝だっていうふうに私の母の弟だった叔父も言っていたのを思い出しております。今、おっしゃったような将来の展望というものをしっかりもちながら、やはり、県の環境を守っていかなければならないし、いろんな施策も打ち出していかなければならないというふうに思っております。

地球温暖化防止、エコといいますけども、それを全ての政策に反映させながらやっていくというふうに県のほうでもしております。

なかなか歯がゆいかとは思いますが、全ての施策にそういう視点を入れながらやろうというふうに指示をしておりますので、これからもご意見をいろいろお願いしたいと思います。本当にありがとうございます。

(司会)

次の方、簡潔にお願いいたします。これを最後のご意見とさせていただきます。

【16 ナラ枯れ・ブナ枯れについて】

☆今日は県知事さんはじめ、鶴岡市長さんとお会いできまして、大変光栄に思います。それで一つだけお願いしたいと思います。私、温海地区の摩耶山の下に住む、越沢自治会の会長をしております。

ナラ枯れが始まってここ10年あまりのうちにナラがほとんど枯れました。ところが、今度はブナの葉が一足早く紅葉するような、そういった病気か虫か分かりませんが、高い山ほど大きいナラの木、いや、ブナの木ほどが紅葉を始めております。

ナラ枯れのように全て枯れられると大変景観も悪くなるし、自然のリズムも壊れてくるかと思えます。それでブナ枯れのないように研究していただきたいし、病気であれば何らかの対策を講じていただきたいと思えます。よろしく申し上げます。

(知事)

はい、ありがとうございます。ナラ枯れの問題とブナ枯れの問題と本当に両方本県ありましてですね、そのナラ枯れ対策っていうのを始めているんです。本県独自のやり方というものも開発して始めているところです。

ただ、抜本的な解決にはまだまだならないというふうに思いますけれども。またブナ枯れはですね、ナラ枯れとまたちょっと違ってブナ枯れはその時駄目になるけど、枯れてしまうわけではなく、春になるとまた再生するというふうに聞いておりますので、そこをどのようにしていったらいいのか、総合支庁のほうで具体的なものを説明してください。

(産業経済部長)

まだ、ブナ枯れについて特定の対策というようなものはないと思ってました。今知事おっしゃったように、木が全て枯れるというようなことではないので、まだそこまでいっておりません。要望あったように、どういう対策が必要か勉強していきたいというふうに思っています。